# 特定外来生物と要注意外来生物

外来生物はさまざまな要因で日本在来の自然に影響を与えてきています。「特定外来生物」は特に影響が大きいとされて、外来生物法で飼育したり、野外に放つことが原則禁止されています。「要注意外来生物」は情報収集をして評価検討を進めている種類です。

今回の企画展では兵庫県に分布がある「特定外来生物」と「要注意外来生物」などを展示します。

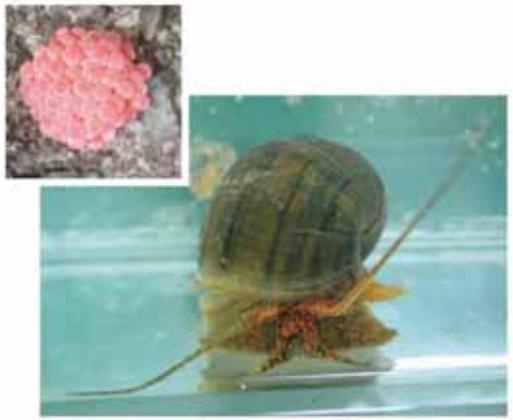
アライグマ（アライグマ科）
特定外来生物。北米原産。ペットとして輸入されたものが野生化。急速に個体数が増えており、農業被害が増加している。在来の小動物を捕食するなど生態系への影響もある。

セアカゴケグモ（ヒメグモ科）
特定外来生物。オーストラリア原産。腹部に目立った赤い模様のあるメスは毒をもっている。

ミシシッピアカミミガメ（ヌマガメ科）
要注意外来生物。北米原産。ペット用（ミドリガメ）が野生化。在来カメとの競合の可能性がある。

ボタンウキクサ（サトイモ科）
特定外来生物。アフリカ原産。観賞用の水草として利用されてきたが、茎を伸ばして水面を埋め尽くして、光や酸素の不足から他の植物や小動物に悪影響を与えている。

ナルトサワギク（キク科）
特定外来生物。マダガスカル原産。1970年代から徳島県や兵庫県で見つかり、急速に分布が広がっている。別名コウベギク。家畜が食べると中毒を起こすことが知られている。



スクミリンゴガイ（リンゴガイ科）
要注意外来生物。南米原産。食用に飼育されたものが野生化。ピンク色の卵塊を産みつける。若い稲を食べるなどの被害をもたらす。

タイリクバラタナゴ（コイ科）
要注意外来生物。中国原産。絶滅危惧種のニッポンバラタナゴと容易に交配して、遺伝的なかく乱を起こしている。

オオフサモ（アリノトウグサ科）
特定外来生物。南米原産。1920年代に神戸市須磨寺で最初に発見された。水辺への植栽などに利用されているが、急速に広がるため、在来種や生態系への影響が出ている。

クワガタムシ科昆虫
要注意外来生物。世界各地からさまざまな種がペット用として輸入されている。遺伝的なかく乱や在来種との競合が心配されているが、研究データが不足している。

ニセアカシア（マメ科）
要注意外来生物。北米原産。成長が速く、高さ25mにもなる高木。荒地の緑化や砂防のために植栽されており、蜜源にも利用される。ニセアカシアが侵入した林では生物多様性の低下が報告されている。